

散 射 韻

北海道電力（北電）は、泊原発三号機を再稼働すれば、家庭向け電気料金を一%程度、企業向けを六%程度値下げできるとの見通しを発表した。北電は二〇二七年早期の三号機再稼働を目指しており、再稼働の必須条件となっている北海道や地元自治体の同意に向け、住民の理解を広げたい狙いがある。しかし、北電は泊原発全三基が停止した二〇一二年以降、計三回にわたつて大幅な値上げをしており、一一%程度の値下げ幅には賛否を含めさまざまな意見がある。

記者会見を開いた北電の斎藤晋社長は「泊発電所の再稼働後には電気料金を値下げすることを道民の皆さんにお約束しており、停止した二〇一二年以降、計三回にわたつて大幅な値上げをしており、一一%程度の値下げ幅には賛否を含めさまざまな意見がある。

記者会見を開いた北電の斎藤晋社長は「泊発電所の再稼働後には電気料金を値下げすることを道民の皆さんにお約束しており、停止した二〇一二年以降、計三回にわたつて大幅な値上げをしており、一一%程度の値下げ幅には賛否を含めさまざまな意見がある。

値下げ幅は適正か

このため、斎藤社長は「三号機の再稼働スケジュールにめどがたつた段階で、一・二号機の国の審査を再開させたいと考えている。一・二号機の再稼働後にも料金低下を実施し、さらに低廉な電力供給に努めていく」などと述べ、全三基の再稼働後、二〇一三年の値上げ前の水準に近づけたい考えを示している。

と比較して四三八八円増の一萬二八七円まで上昇していた。現在の料金は燃料価格の低下により九三三五円まで下がっているものの、全国の電力各社が公表するモデル世帯と比較して最も高い水準にあり、一一%程度の値下げが行われたとしても、依然として全国的には高い水準の料金にとどまる見通しだ。

出して積算する一方、物価や金利上昇によるコスト増（年間三〇〇億円程度）分を差し引き、年間計五〇〇億円程度を値下げの「原資」にするという。

民の不安や懸念、反対の声がまだまだ根強いことが浮き彫りになった。

三号機は今年七月、原子力規制委員会の安全審査に合格。地元同意のプロセスが残っているが、再稼働はいわば既定路線とも言え、反対派の声は置き去りにされる可能性が高いとみられる。その状況下で、さらなる経営効率化も含め、値下げ幅を一%程度まで積み上げたと評価するか、あるいは、これまでの値上げ幅に比して値下げ幅が少なすぎると批判するか。安全性への不安や懸念がくすぶるなか、冷静な判断が求められそうだ。

△陽△

た説明会では、北電の担当者も出席し、再稼働後の値下げ見通しを報告した。これに対し、参加者からは「原発の不始末で値上げしたのに、原発を再稼働して値下げすると言うのは欺まんだ。わずか月一〇〇〇円の値下げで、命を売るほど私は馬鹿ではない。再稼働を認めるべきではない」などと、再稼働への強い批判の声が多数上がり、道

だつた。また、再稼働後の電気料金について、現状より二〇%以上の値下げを求める割合が七割を超えており、一一%程度の値下げ幅では道民の納得を得られない可能性

31